

年譜

- 1889年(明治22) 5月20日、飯田市の菓子商虎太郎、クニの長男として生まれる。
- 1892年(明治25) 3歳で両親と共に上京、日本橋人形町に住む。
- 1897年(明治30) 父は、祖母の弟今村清之助が創業した今村銀行に勤める。
- 1905年(明治38) 大成中学校に入学。この頃からスケッチ、水彩画を始める。
- 1910年(明治43) 中学校卒業。美術学校を志望するも父の反対にあい、断念。早稲田大学高等予科に入学。漆絵の内職をする。1913年、出席日数不足で早稲田大学商科を中途退学。
- 1914年(大正3) 画家を志す。近所のペンキ屋から油彩画の手ほどきを受ける。
- 1915年(大正4) 26歳で第2回二科展に油彩画を出品。「霧(は)れゆく園」が初入選、第一回樗牛賞を受賞。小笠原諸島を写生旅行。
- 1916年(大正5) 第3回二科展で「楽しき花畑」「砂糖搾り」が入選、二科賞受賞。
- 1922年(大正11) 油彩画「楽しき日の記念」を平和記念東京博覧会に出品、二等賞画家羽田武郎(後、山崎と改姓)を知る。二科会会友に推挙される。
- 1923年(大正12) 小笠原諸島へ行く。9月、関東大震災。フランスのサロン・ドートンヌに5点出品。「自然と人生」を日本総合美術展に出品、一等賞を受賞。賞金1000円で東京・横浜の小学校約200校に絵を贈ることを計画。
- 1924年(大正13) 第11回二科展に、板に寄贈画を11点貼り付けた作品「復興児童に贈る絵」の陳列を拒否される。それを不服として二科会友を返上。三科造形美術協会結成に参加。
- 1925年(大正14) 聖徳太子奉讃展委員を委嘱されるが辞退。三科会は公募展の開催中に解散。
- 1927年(昭和2) 第8回帝展で、落選した「自然と人生」を会場入り口脇に展示して騒ぎ検挙される。
- 1929年(昭和4) 創作オモチャン会結成。創作玩具展開催。第1回童心芸術社展開催
- 1930年(昭和5) 童心芸術社主催で「第1回日本アンデパンダン展」開催。古書の巡回販売を開始。五反田で露店夜店を出す。山崎武郎に誘われて長野商工会議所主催の山人社展に出品。
- 1936年(昭和11) 長野市に滞在中山崎武郎の勧めで長野県の名勝地を水墨画で写生する。
- 1937年(昭和12) 日本漆絵協会設立
- 1940年(昭和15) 山崎武郎の弟武嗣郎(ぶしろう)経営の羽田書店より宮沢賢治の「グスコーブドリの伝記」が出版されることになり挿画を担当、岩手県盛岡・花巻方面を訪問。
- 1941年(昭和16) 「グスコーブドリの伝記」刊。長野県庁の依頼で県の名勝地を絵葉書にする。
- 1943年(昭和18) 日本美術報国会への加入を断り、絵の具などの配給を絶たれる。
- 1944年(昭和19) 静岡岡県三ヶ日町に疎開。その後、山崎武郎の世話で長野市に再疎開。
- 1945年(昭和20) 8月、敗戦。長野工業高校図画科講師を委嘱される。
- 1946年(昭和21) この年から善光寺白蓮坊でたびたび個展。「童話のお蔵」発行。
- 1947年(昭和22) マッカーサー元帥、GHQ長野軍政部のへの贈呈屏風絵を制作。
- 1948年(昭和23) 長野工業学校を退任。須坂農業高校助教諭心得兼上高井郡仁礼村小学校、中学校の図画教師に就任。宮沢賢治の童話『なめとこ山の熊』の挿絵を描く。
- 1952年(昭和27) 広島県三原市の松寿寺、竹原市の浄居寺を訪れ制作に励む。水内小学校(旧信州新町)に招かれ約100日間滞在。「新町風景」など大作を描く。
- 1956年(昭和31) 長野市南隣の榎花館に転居。絵画教室を開く。
- 1961年(昭和36) 第23回「一水会展」(東京都美術館)に支持者が出品、一般佳作賞。
- 1962年(昭和37) 第24回「一水会展」に出品、入選し会員に推される。
- 1965年(昭和40) 第27回一水会展に「故郷のスターマイン」「私と焼き絵研究」を出品。10月11日、心不全のため永眠。享年76。

■2014年展覧会スケジュール

変更となる場合がございます。

	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
大展示室					第14回 私の愛する一点展 9/6~10/26		堀内康司展 11/1~1/18			梅野コレクション展 2/14~3/29		
ふれあい館			異端の天才 横井弘三展 6/21~8/31					信州ゆかりの作家たち 11/1~1/18	收藏品整理のため 休館	收藏品展 予定 2/14~3/19	みまき絵画会	林俊衛展

■2014年イベントスケジュール

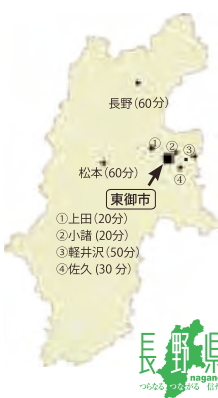
- 6/28(日) 横井弘三展ギャラリートーク 14:00~15:30
 - 7/26(土) 木雨忌・ギャラリートーク 13:30~14:30
 - 8/23(土) スケッチ大会 9:00~
 - 9/7(日) 私の愛する一点展ギャラリートーク
 - 10/11(土)~12(日) 火のアートフェスティバル
 - 11月上旬 堀内康司展ギャラリートーク
 - 1月中旬 親睦会・新年のイベント
- *変更となる場合がございます。詳細はお問い合わせください

■施設情報、開館案内

とうみし
東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1
TEL0268-61-6161、FAX0268-61-6162、umenokinen@ueda.ne.jp
開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)
入館料 800円(高校生以上) 15名以上団体 700円
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
休館日 6月23、30日 7月7、14、22、28日 8月4、11、18、25日

■アクセス

- お車** 練馬ICから2.5時間
- 鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「大屋」下車、タクシー10分
- ◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、大屋下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換。大屋下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fmonti785.jp



異端の天才
横井弘三展

2014年
6月21日(土)~8月31日(日)

横井弘三展ギャラリー・トーク
6/28(土) 14:00~15:30



異端の天才

東御市梅野記念絵画館
館長 佐藤 修

予備知識を持たないで横井弘三の絵画世界のドアを開けた人はその妖しく、不気味さを秘めた画面の形象に少なからず戸惑いを覚えるでしょう。「水彩」「油彩」「墨」「版画」は普通のこととして「ペンキ絵」「漆絵」「焼き絵」までは想像が付きまします。ですが、「泳ぎ絵」「プラスチック画」となってくるとよくわかりません。

人生も一筋縄ではいきませんでした。画家であり玩具を創作し、小間物屋を開き、露天商となり、古本屋を出し、洋食屋で働き…。何ものにも束縛されず自由であることは立派なことですが、組織や集団の中にあってはそういきません。颯爽とデビューした中央画壇にあっても、直情径行ついに止まず、異端視され、孤立し、やがて忘れられていく……世間の常識という尺度からすれば無理からぬことであつたのかもしれない。

「素朴派」「稚拙派」を名乗り「童心画」「東画」と称し、「怪奇派」とも自称しました。振幅の激しい言動に惑わされがちですが、眼を凝らし、芯の部分だけを見ていきますと、ただ純粋に“絵を描きたい！”と叫んでいる、そういう姿が見えてきます。

50代に入り、故郷信州で過ごすことが多くなりました。画家としても暮らしの上でも、郷里の人たちに助けられたようです。紆余曲折の激しかった異端の画家の生涯も、晩年は故郷信州に支えられ、平穏な境地を得たように思えます。横井弘三の画業の全容を眺望し丹念にその足跡を辿られた小崎軍司さんは、その著作の序文にこう書かれています。最良の横井評ではないでしょうか。

——横井弘三は自己の天才を信じて生きた、逞しい曲者（くせもの）なのである。そして、その作品は横井以外の人には模倣しようとしてもできない独得の絵画世界を創っている。

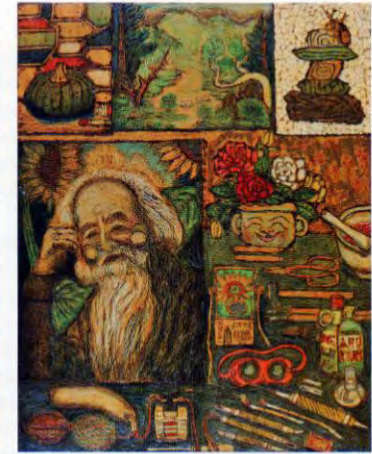
（小崎軍司『横井弘三の生涯と芸術』＝『画集 横井弘三の世界』郷土出版社刊所収）



輝く夜景



自画像



私と焼絵研究



上高地



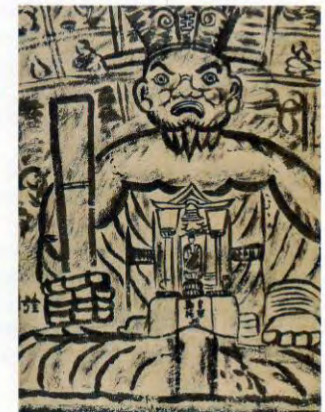
ひまわり



クジラのオモチャ



石仏



閻魔大王